

私たちの教会に与えられている5つの使命について四回にわたって学んでいる。覚えてください「礼拝、愛の業、伝道、まじわり、成長（すなわち訓練・教育）」。今日は三回目、伝道という使命。まず間違っていたらダメなのは、この伝道という使命を三番目に取り上げるからといって、これは三番目に重要なことだということではありません。礼拝が一番、愛の業が二番、伝道は三番、・・・ということじゃない。5つの使命はいずれも重要で、どれかに偏ってしまうと教会のかたちもいびつになってしまう。もちろん現実的には、すべてに等しく力を注ぐということは困難ですが、一番、二番と順番づける意識は持ってほしくない。ただ、そのうえでもしあえて順番をつけるとするなら、一番にくるのは伝道になると思います。伝道というのは教会の本質です。私たちはキリストの教会と名乗ってこの地に存在する限り、伝道しないわけにはいかない。というより、無意識のうちに伝道しております。

クリスチャンというのはこの世にあって、この世に属さない者、キリストに属する者として生きる存在です。日本人でありながらも、でも本当の国籍を天に置く天国人として生きる存在です。私は、千葉に移ってきましてから、新しい方々との出会いがたくさん与えられますので、自己紹介せねばなりません。その際に、よくふるさとはどこかと聞かれます。私の場合、一応愛知県出身ですが、どちらかという思いとしては神戸がふるさとでして、でもそういうことをいちいち説明するのも面倒くさい。だから最近は、ふるさとはどこですかと聞かれますと、わたしのふるさは天国なんですと答えることにしています。ま、結局はその後で、愛知やら神戸やらなんて話をすることになるのですが、でも冗談抜きで、わたしは天国人だ、まわりの日本人とは違う特別な存在なんだと、胸を張る思いはいつも持っております。そういう天国人として、キリストに愛されている者として、胸を張って、希望をもって生きていく。そういう私たちの姿は、目立ちちゃうものなのです。そうしておのずと周りへのアピールになり、福音の伝道になっていきます。そういう意味で、伝道というのは教会の本質です。私たちの教会が、本当にキリストの教会として命の輝きを持っているかぎり、目立たないでいることなどできないのです。何も明るい人じゃなきゃだめ、ポジティブじゃなきゃだめと言いたいわけじゃない。クリスチャンだってネガティブな人もいるし、控えめな人、おとなしい目立たない人はいる。それでいい。でも、おとなしくてもあの人とは何か違うと、感じさせてしまうはず。そういう意味でクリスチャンというのは、それだけで特別な存在、伝道的存在なのです。暗い世にあって、命の光をいただいてしまった者が、目立たないでいることなんてできないのです。

まあ今申し上げましたのは大きな意味での伝道ということになりますが、今日お話ししますのはもっと狭い意味での伝道活動、特伝をしたり、トラクトを配ったり、家族や友人を礼拝に誘ったりして、イエス・キリストの福音＝キリストにある救いを伝えようとする、私たちの教会の営みについてのことです。まず考えてみましょう。どうして私たちは伝道活動するのでし

ようか。一番シンプルに考えるなら、それは、今日お読みしたイエス様の大伝道命令があるからです。牧師や長老たちが厳しく指導するから、そんな理由では誰も動こうとはしません。イエス様がそうしろと言うから、これに尽きます。これには聞かねばならない。問題は、なぜイエス様はこのようなことを私たちにお命じになられたのかということです。これも難しいことを言い出すと色んな答えがあると思うのですが、今日のごくごくシンプルに、小学生にも覚えてほしいという願いをもってお伝えします。どうしてイエス様は大伝道命令を出されたのか、それは父なる神が私たち罪人を救い出すことを望んでおられるからです。私たちの周りには、救いを必要としている罪人があまりにもたくさんおります。土曜日、ヨナ書から日々の御言葉メールを配信しました。伝道について考えさせられる書でした。反逆の都ニネベに預言者ヨナが遣わされ、悔い改めよと促すとみなが悔い改めて、神の裁きを免れるという話。面白いのは、そうして遣わされていくヨナは、ニネベの都の人々がそうして裁きを免れることを望んでいない、どっちかというと滅びてしまえと思っている。だから最初は、ニネベになんて行きたくないと逃げる。でも神は違う。12万人以上のニネベの人々「右も左も分からぬ人間」でも、神はそのニネベの罪人たちを愛しておられて、滅ぼしたくないのです。そんな風に、神はこの日本にいる一億人以上の「右も左も分からぬ人々」を愛しておられる。そのお一人お一人の救いを望んでおられるから、私たちは伝道活動をするのです。

それは、多くの方にとっては余計なお世話と言われることだろうと思います。多くの方は、自分が救われねばならない罪人だなどと思っていないからです。あなたは永遠の滅びに向かっている罪人だ、救われねばと言われて、不愉快に思う人も多い。例えとしてふさわしくないかもしれませんが、統合失調症という病があります。色んな幻聴が聞こえてきたり、妄想にとらわれてしまって、周りから見て明らかにおかしくなっている。本人もおかしいと思って苦しんでいる。でもこの病の治療が難しいのは、まず本人に、自分が病気だということを認識させることが大変困難であるからです。私も、そういう方と関わったことがあります。治療を拒んで、かえってこれまで以上に不安感、不信感を募らせて、どんどん苦しくなっていく。本当にかわいそうだと思ったが、私たちもまたこれと同じことをしていると思う。神様の目から見て、私たち人間の世界というのは、そういう袋小路にはまっていると言える。

皆さんもニュース、新聞をご覧になって、溜息をつかない日はほとんどないことと思います。明らかに現代社会というのは病んでおります。別に 2012 年の今に限らず、何十年も前から。「現代」というのは面白いもので、その時代その時代に生きている人たちが、自分たちは病んでいる世界は病んでいると、ずーと言い続けている、それが現代という時代。いよいよ問題が深刻になっているように思える 2012 年の日本。今や、まじめで正直な人ほどいじめられたり、心を病んでいくような社会です。こういう私たちの現実を病んでいないと言い張る人はさすがにいないと思います。でも多くの人が、その病の正体を知らないでいる。いや、知ることを拒んでいる。拒んだままで、根本的な治療から逃げているからどんどん悪くなっていく。それが私たちの現実です。この病の正体は、罪です。神との正しい関係の喪失です。人間にとっ

でもっとも大切なこの神との関係がぐちゃぐちゃに歪んでいるから、すべてが歪んでいくのです。でも、誰もそのことを認めようとせず、対症療法でごまかしているうちに、どんどん病状が悪化している。神の目から見て私たちというのはそういう風にして、永遠の滅びに至る重大な病に侵されながらも、決してそれと向き合おうとしない、かたくなで悲しい病人なのです。

そういう者をわざわざ助ける必要は、本来神にはありません。ほっておいても、神には痛くもかゆくもないのです。むしろ、滅んでしまえばいいと思われても仕方ない。今こうやって人間が苦しんでいるのは、神を裏切り反逆したという歴史の結果だからです。私たちは神の形にしたがって、美しく、栄光あるものに創造されたはずなのに、自分で自分を汚して行って、どんどん醜く落ちぶれていきました。神からすれば、もうこんな者たちは見限るとというのが、本来あるべき判断なのです。私たちは、神に見限られて当然の罪人であります。関わりあいたくない、やっかいな病人なのであります。

しかし聖書には、神はそんな罪人を見限られたとは書かれていないのです。そうではなくて、神はそんなやっかいな病人たちを、助けたい、健やかに回復したいと願っておられるということです。なぜそんなことを願われるのか？それは、私たちを愛してくださっているからとしか言いようがありません。今日の関連聖句、その最初「なぜ伝道するのか？」できれば後で確認してほしい。その中でも特に大切な言葉が、ヨハネ 3:16。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。(ヨハネ 3:16)」黄金の言葉と呼ばれる、聖書の中の聖書。私はこの言葉にこそ、「なぜ伝道せねばならないのか」の最終的な答えがあると思っている。なぜ私たちは伝道せねばならないのか。それは神が、「一人も滅びないで、永遠の命を得る」ことを望んでおられるからです。この病んで疲れ果てている悪しき「世」が「救われる」ことを、神が望んでおられるからです。なぜそんなことを望まれるのか、それは独り子をお与えになったほどに、私たちを愛してくださっているからです。愛される理由などありません。でもただ神がまったく自由な愛で、無条件に、この私を大切にしてくださるのです。この神の愛に迫られて、私たちも伝道するのです。

とはいえ、先にも申し上げましたが、私たちの周りにはいる人々の多くは、罪という病の自覚症状がありませんし、少しは自覚症状があったとしても、その病気の本当の正体を知らないままだし、あるいはそれを知ることから逃げているわけでありまして、そういう方々にあなたは罪に囚われているから助けたいのですと申し上げても、ほとんどの方からは余計なおせっかいとしか思われません。神があなたを愛しておられるのです、救いたいと願っておられるのですと言ってみたとこで、愛の押しつけと気味悪がられるのが関の山です。

実際のところ私たちは、そういう葛藤の中で伝道活動を行っているのではないのでしょうか。そしてそういう人々の反応に直面する中で、自信を失っているということがあるのではないのでしょうか。私にはそのような時がありました。熊本で7年、最後の二年くらいに急に新しい方

が来るようになったりしたが、それまでは本当に何をやってもうまくいかない。知り合いになった方々に懸命に伝道しますが、体よくかわされるか、いいお話をありがとうございます、勉強になりましたと表面的に受け取られるだけ。教会に来られる方といえば、人生相談というか、要するに愚痴を聞いてほしい方（なかなか帰ってくれない）、先にお話したような心病んだ方の妄想につきあうこともあった。ある方の場合は、神様を求めて教会に来られたと喜んで対応していましたが、自分勝手な思い込みで、神様とはこうこうこういう方であるはずだなんて言われますから、いや違いますよ、聖書の神は・・・と説明しますと、そんな神様はお断りですと去って行かれる。時には、様々な苦悩を抱えて、教会をたずねて来られる方々と、本当にたくさんの時間をかけて祈り関わり、福音を伝えようとしてきました。でも、本当に届けたい人にこそ、福音というのは届かないものだと痛感しました。色んな苦悩の中でガチガチにこわばってしまった心は、決して容易には砕かれることはありません。必死で保ってきたプライドにしがみついて、砕かれることがない。だからこそ、その根源的な病を癒すこともできないで、どんどん悪循環にはまって行って、現実の人間関係などもどんどん悪くなっていく、そんな人を見てきました。

そういう中で、私はひどく自信を失いました。単純に、自分はなんと伝道が下手なんだろうと最初は思い悩みました。そして、私の福音理解がよくない、説教が悪いからダメなんだと必死で勉強もしました。でもそれでもうまくいかないことが続きますと、だんだんともう、心が折れてきてしまっていて、自分のやっていることは無駄なのではないか、自分の語る福音はだれにも必要とされていないのではないかと思いついて、このまま牧師をされていていいのだろうかと考えたこともある。伝道は進まない、会いに来る人は話をしたいばかりで、誰も私の話を聴こうとしない。会員からも御言葉への積極的な応答が見出されない。むしろ、みんな説教が早く終わってほしい、日曜日は早く帰りたいと・・・。そんな中で、自分の語る御言葉などだれにも必要とされていないのではないかと悩んでしまった。

でも、違うのですね。そのように考えてはいけません。まず、必要とされていないなどというのは、本当に未熟な牧師の弱音でありまして、決してそんなことあるわけがないのです。日々牧師のために祈ってくださって、日曜日には遠くから礼拝に通ってこられる会員がいる。かたくなであっても、礼拝に通って御言葉を聞こうとしている求道者がいる。それなのに、御言葉が必要とされていないなどというのは、本当に情けなく失礼な考えでした。そのことを今は反省しております。しかし、もっと大きな反省があります。私は、私の伝える福音が「人から」必要とされているかどうかを考えていたこと。でも、そうじゃない、大事なことは人がどうのこうののではないのです。人から必要とされようがされまいが、伝えねばならないのです。なぜなら、「神が」それを必要としておられるからです。私たちが一人でも多くの人に福音を伝えることを、神が必要としておられるのです。神が、聖霊において、この私が語り伝える言葉を用いようとしておられるのです。だから語らねばならない。

パウロもテモテに教えました。福音は折が良くても悪くても、そのべ伝えねばなりません。

みなが自分に都合のいいことだけを聞こうとして、福音の真理から耳を背ける時がくるのです。誰も健全な教えを聞こうとしない時がくるのです。でも御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。これが神からの命令であります。人が聞こうが聞かまいが、いや聞く者など一人もいなくて当たり前なのです。誰もが、永遠の滅びにいたる罪という病のことなんて考えたくないのです。本当の問題から目をそらしたまんま、お気楽に生きていきたいのです。だから、聞こうとする者など一人もいなくて当たり前です。それでも、御言葉を宣べ伝えなさいと主は言われます。福音を宣べ伝えるあなたという存在を、私は必要としていると主は言ってくださいなのです。この世界には、あなたの伝道活動が必要なのだと、主は言ってくださいなのです。

なぜなら、私たちが伝える福音こそが、人間を罪という根源的な病から癒す、特効薬だからです。ある伝道者が言いました。もし私たちがガンの特効薬を持っていたら、多くのいのちを救うその情報を広く伝えるために何でもするでしょう。でも、私たちはすでに、それにまさる素晴らしい情報を持っています。人を罪から解放し、生かして、立たせて、愛を教えて、私たちが歩むべき本当の目的へと導いてくださるイエス・キリストという救い主の情報です。彼が与えてくれる永遠の命という最高のニュースです。この最高のニュースの値打ちを知らない人がたくさんいます。でも、たとえすべての人間が今この福音の必要を感じていないとしても、そういう人々にとってこの福音が必要なのだと、私たちは知っているはずで、これは、神が私たちに与えてくださった特効薬だと知っているはずで、なぜなら私たち自身が、この福音によって、命を得させていただいたからです。死んでいたのによみがえらせていただいたからです。絶望していたのに、希望をもつことを教えていただいたからです。今や私たちは、私たちの愛する人々を助けるために、この希望の福音を神様から委ねられているのです。これが、私たちの教会に与えられている伝道という使命です。

この大いなる責任と、同時に大いなる特権に、共に励んでいきましょう。最後にコロサイ 1:21-23 をお読みします。「あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。しかし今や、神は御子の肉の体において、その死によってあなたがたと和解し、御自身の聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者としてくださいました。ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は世界中いたるところの人々にのべ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。」わたしたちもまた、この福音に仕える者とされました。この福音の希望から、離れてはなりません。